

9-6			
主題	健康けん玉部活動による、社会貢献活動への挑戦		
法人名・事業所名	社福) 東京都福祉事業協会 赤羽北さくら荘		
発表者(職種)	川崎初美(理学療法士 スーパーバイザー)		
共同研究(実践)者	安達恭子(看護師)、北原敦志(介護職員)		
電話	03-3900-3901	FAX	03-3900-3902
事業所紹介	小学校と高校に挟まれ、集合住宅の新旧住民と保育園・児童館の子どもたちとの世代間交流が実践できる恵まれた地域で、活動しています。29 年 4 月に移転し新たに保育園を併設した複合施設です。(JR 埼京線北赤羽駅赤羽口徒歩 7 分)		
<p><b>《1. 研究(実践)前の状況と課題》</b>                  北区浮間地区から、赤羽北地区への移転に伴い、新たな地区内で施設を知っていただき、交流を持つために、何らかのきっかけや、特徴を打ち出すことが必要であった。</p> <p><b>《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》</b>                  世代間交流が継続できること。法人内での顔の見える関係をつくり、近隣事業所間での交流が活発になること。近隣住民の参加を得て、地域に開かれた施設と認識していただくこと。</p> <p><b>《3. 具体的な取り組みの内容》</b>                  けん玉級認定、健康けん玉技、けん玉を使った遊び方、創作けん玉遊びの 4 種類の内容を作り、興味のあるものへの参加を促して、家庭や各事業所へ持ち帰り、情報伝達や、顔の見える関係が継続できることとした。毎月隔週で金曜日 6 時半から 8 時の夜間帯に施設の玄関で実施する。</p> <p><b>《4. 取り組みの結果》</b>                  7 月までに計 6 回活動。述べ参加人数 41 名。登録者 23 名(特養 4 名、包括 2 名、近隣住民 3 名、近隣事業所職員 7 名、小学生 3 名、実習生 2 名、講師協力者 2 名)近隣事業所での祭りに参加。級認定者 12 名(4 級から 7 級)近隣事業所内での口コミでの参加や、小学校・学童保育で話題となり、健康けん玉部の存在が知られていることもわかった。</p> <p><b>《5. 考察、まとめ》</b>                  地域包括支援センターの活動から区民への周知、施設案内や連絡協議会等から近隣事業所への周知が出来て、職員が仕事帰りに子どもを連れての参加も見られるようになった。参加者が職場・学校・自宅・サロンなどの場で、伝達し輪が広がることで社会貢献に繋がる活動としていきたい。</p> <p><b>《6. 倫理的配慮に関する事項》</b>                  なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。</p> <p><b>《7. 参考文献》</b>                  あそぼうけん玉 公益社団法人日本けん玉協会著 ベースボールマガジン社                  きょうの健康 2015 年 10 月号 p 66 から p 69 運動で健康 けん玉に挑戦 NHK 出版</p> <p><b>《8. 提案と発信》</b>                  地域連携のために、外部にオープンな活動を行うこと。地域包括支援センター及び地区社会福祉協議会、事業所連絡会と連携を取り、地域に開いた施設を目指すことが大切である。</p>			